

バクマイ病院感染症科での夫婦間 HIV 感染に関する研究

長崎大学熱研内科 博士課程 島田郁美

2010年4月、臨床医を一旦離れ、熱帯医学修士課程の学生として長崎にやってきました。この研修課程では、前期に熱帯医学全般について学び、後期では日本人学生は海外臨床研究の機会を与えられます。私は、ベトナム、ハノイ市に約4カ月滞在し、市内南部にある病床数1000床を超える国立バクマイ病院でHIV感染症に関する研究を行いました。そこで得た結果を元に、さらなる研究に発展させるべく2011年4月から博士課程に進学し、引き続き研究に励んでいます。

バクマイ病院は1911年にフランス政府によって建設された歴史ある病院です。ベトナム戦争時代には甚大な被害を受けましたが、1975年終戦後はフランス、日本、アメリカ等各国からの支援が入り、現在はベトナム三大国立病院の一つ、かつベトナム北部拠点病院として大きな機能を担っています。

1986年にドイモイ政策により市場経済が導入されて以降、ベトナムは急激な経済成長を遂げ、現在では戦争の面影を残すところは市内では博物館くらいなものです。その半面、ベトナム戦争時代に軍人間で蔓延した薬物中毒は、未だに尾を引いて、ベトナム社会が抱える問題点となっています。戦後一旦は減少した薬物中毒者数は、経済発展にともなって1980年代後半から再度上昇に転じ、2008年時点で薬物中毒者は100万人中200人程度と推定されます。特に、北部ベトナムは中毒者の多い地域を複数抱えており、中には100万人中1000人を超す県もあります。そのような状況下で、経静脈的薬物使用を介したHIV感染症の蔓延は深刻さを帯び、現在は経静脈的薬物使用者(IDU)の約40%がHIV陽性と言われています。2000年以降、HIV感染症はIDUから性産業従事者を介して一般人口に広がり、HIV陽性者数は急増、2010年時点でHIV罹患率は0.44%と推定されています。(比較：日本0.08%、タイ1.3%, 2009年)

発展の著しいハノイ市内

開発が進んでいる様子がよくわかります。



バクマイ病院正面から

ここに見える正面病棟の奥には、さらにたくさんの病棟が並んでいます。



緑の多いバクマイ病院敷地内



バクマイ病院の感染症科は HIV 専門病床 8 床、IDU 2 床を含め全 72 床を抱え、現時点（2011 年 12 月）での HIV 外来通院患者数は約 750 名です。

バクマイ病院感染症科外観



HIV 外来にて

週に 3 回、患者さん向けのレクチャーがあります。毎回たくさんの患者さんご家族が参加しています。医師、看護師、患者支援団体の方などが協力してレクチャーをしています。



HIV 外来処置室にて。

結核性リンパ節炎の AIDS 患者さん。リンパ節穿刺をしているところです。採取検体は抗酸菌培養検査に出されます。

バクマイ病院では、かなり高度な検査が可能で、各種検体からの細菌培養の他にも、ウイルス PCR、CT、MRI、PET 検査まで行われることもあります。

ただし、医療費の支払いが困難な患者さんも多く、医療行為の制限はまだ多いのが実情です。幸いながら、HIV 治療は無料で受けられるようサポートされています。



HIV 外来カンファレンス室にて。

感染症科ドクターやナース達とお昼ご飯。この日はハノイ 1000 年祭の記念日で、お祝いムードでした。



VCT サイト前にて。

バクマイ病院の中には VCT (Voluntary Counseling and Testing) サイトがあります。HIV 感染症が心配な人は無料で HIV 検査、カウンセリングを受けることができ、結果は数日中にわかります。ここから感染症科に紹介されてくる患者さんも少なくありません。月に 450~500 人程がこの VCT サイトで検査を受けています。



病棟前にて。

バクマイ病院創立 100 周年記念の日、女性スタッフ達がアオザイを持参して記念写真を撮っていました。とってもカラフルなアオザイの女性達が並んだ様は壮観です。感染症科スタッフにアオザイを借りて私も着せてもらいました。



修士課程での研究の結果から、通院患者のほとんどが既婚者であることがわかりました。しかしながら、彼らの配偶者全員が HIV に感染しているというわけではありませんでした。一生つきあう病気である HIV 感染症において、1 人の予防は 1000 人の治療に勝るとも言われます。これらの HIV 陰性配偶者を HIV 感染から予防するために、ベトナムにおける HIV 感染症蔓延の行動学的、ウイルス学的メカニズムを探ることが、博士課程での研究目的です。

ほとんどのベトナム人は英語を話すことができません。全ての書類はベトナム語に翻訳し、ベトナム人スタッフ達から患者さんに研究参加に際しての説明をしてもらいます。研究参加に同意頂いた患者さんにはアンケート調査を実施し、血液検体を採取させてもらいます。簡単なように聞こえますが、実際には、英語のわかるベトナム人の方に通訳をお願いして、スタッフに手順を説明するだけでも大変なことです。研究経験のないスタッフ達に、どうしてこのような調査をするのか、どういう方法であるのか、してはいけないことは何なのか、どのようにアンケート用紙やデータを管理するのかを説明するのはとても時間がかかります。同じ説明を何回も繰り返すこともあります。

また、私はベトナム語のカルテを読めないので、情報収集にはスタッフ達の協力が必要です。最初の数カ月は本当に大変でしたが、徐々にベトナム語を覚え、今では一部だけならカルテも理解できるようになりました。一方、ベトナム語の発音はとても難しく、話すことは今でもできませんが。

HIV 外来横のカンファレンス室にて。

スタッフ達と研究のためのデータ収集中。机いっぱい患者さんのカルテが積み重ねられています。このカルテから必要な情報をデータ化していきます。



Microbiology department にて。

バクマイ病院の検査部技師さん達に、血液検体から単核球の採取方法を説明しているところです。



さらに、バクマイ病院感染症科のとてもいいところは国際的なところです。アメリカ、ハーバード大学 HAIVN (Harvard Medical School AIDS Initiative in Vietnam) のサポートを受けており、症例検討会、勉強会が盛んに行われています。また、アメリカ、ワシントン大学やスウェーデン、カロリンスカ大学の先生方がそれらの勉強会に参加されることも多く、世界のエキスパート達の意見を直に聞くこともでき、大変勉強になります。昨年からは HAIVN 主導の元で新たな研究も始まり、今後の更なる発展が期待されます。

このような環境に曝されているスタッフ達は向上意識が強く、真面目な人が多いこともバクマイ病院の長所です。研究をする上で、言語や文化の違いなど壁も多くありますが、それ以上に有意義で大変刺激的な環境です。このような機会に恵まれたことは非常に光栄であり、教授をはじめ、熱研内科と熱帯医学研究所臨床感染症学分野の先生方、その他関わって下さっている方々、バクマイ病院のスタッフ達には深く感謝しています。